

出版不況、電子書籍、グローバル化の中で次世代の漫画家をいかに育てるか

1月22日、『漫画家白書』発刊記念シンポジウム開催

2009年の邦画売上ベスト10のうち、7作品が「漫画」を原作としていました。この影響力は、漫画がまさしく全てのコンテンツの発信源たる「マザーコンテンツ」であることを示す一端であると言えます。

日本のメディア産業の中核として「マザーコンテンツ」の創り手である漫画家を発掘・育成・支援することは、将来の日本の国際競争力の向上や、若者の雇用の受け皿を作る上でも非常に重要なことではないでしょうか。『漫画家白書』の発刊記念シンポジウムでは、日本のメディア産業の未来を模索いたします。

東京都内で200名弱の漫画家志望者を支援してきた「トキワ荘プロジェクト」(運営:NPO法人NEWVERY/理事長:山本繁/事務所:東京都豊島区)は、今後の漫画家育成の示唆とするため、プロ漫画家と志望者合わせて348人を対象に、労働・育成環境に関するアンケート調査を実施し、目に見えづらいプロ漫画家の実態を調査いたしました。その調査と統計分析の結果をまとめた『漫画家白書』を1月22日に発刊、同時にシンポジウムを開催いたします。

「マザーコンテンツ」の創り手である漫画家の育成について考えるシンポジウム『漫画家白書』発刊記念シンポジウム～マザーコンテンツの創り手をいかに育てるか』は、デジタルハリウッド大学の協力の下に開催します。漫画家、漫画編集者、大学関係者等を登壇者として招き、「漫画家育成について」「新人漫画家の育成における電子書籍の影響」「漫画家育成環境に与える都条例の影響」等について議論いたします。

どうかご取材くださいますよう、ご検討ください!

【シンポジウム登壇者】

◆一色登希彦(いしき・ときひこ)

漫画家(代表作:ダービージョッキー、日本沈没等)

◆岩井好典(いわい・よしのり)

月刊コミックビーム副編集長

◆牧野圭一(まきの・けいいち)

京都精華大学名誉教授、

京都国際漫画ミュージアム国際マンガ研究センター長

◆中村公彦(なかむら・きみひこ)

コミティア実行委員会代表

◆渡邊哲也(わたなべ・てつや)

株式会社小学館クリエイティブ コミック・エンタテインメント部 執行役員

◆菊池健(きくち・たけし)

NPO法人NEWVERY(トキワ荘プロジェクト)事務局長

【名称】 『漫画家白書』発刊記念シンポジウム～「マザーコンテンツ」の創り手をいかに育てるか

【日時】 2011年1月22日(土) 14:00-17:00

【場所】 デジタルハリウッド大学 セカンドキャンパス7階

【定員】 160名(要・参加申込) 【参加費】 1,000円

【主催】 トキワ荘プロジェクト 【協力】 デジタルハリウッド大学

『漫画家白書』発刊記念シンポジウム詳細 <http://www.newvery.jp/home/1145.html>

<このプレスリリースに関するお問い合わせは下記まで>

NPO法人NEWVERY内、トキワ荘プロジェクト 担当:菊池(きくち)/番野(ばんの)

TEL/FAX:050-1071-8324 E-mail:info@newvery.jp WEBSITE:http://www.newvery.jp/